

トリプルネガティブ乳癌における術前化学療法で病理学的完全奏功を得た症例の予後不良因子に関する研究

1. 研究の対象

2012年3月～2023年3月の間にトリプルネガティブ乳癌で術前化学療法後に手術を行った方を対象とします。

2. 研究目的・方法

遠隔転移のないトリプルネガティブ乳癌で術前化学療法後に手術を行った方のうち、病理学的完全奏功（手術検体に腫瘍の遺残がない状態）を得られた場合、その予後は良好とされています。しかし中には病理学的完全奏功を得られても、術後早期に再発し予後が不良であった場合もあります。術後の経過を追い、再発までの時間やその後の治療や経過などを調べて予後不良な方に共通する因子は何か検討することで、再発徴候をとらえ早期に治療介入できる可能性があります。

研究期間は、研究機関の長の実施許可日～2028年12月31日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ①当科初診時と治療開始時の年齢、治療開始日等
- ②血液検査、病理学的診断（Ki-67, 組織学的グレード）、遺伝子検査の結果等
- ③治療内容（術前化学療法使用レジメンや完遂できたかどうか）等
- ④手術から再発までの期間
- ⑤死亡した症例は、再発から死亡までの期間と治療内容等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

TEL：088-888-2139

国立高知大学医学部附属病院乳腺センター

研究責任者 杉本健樹